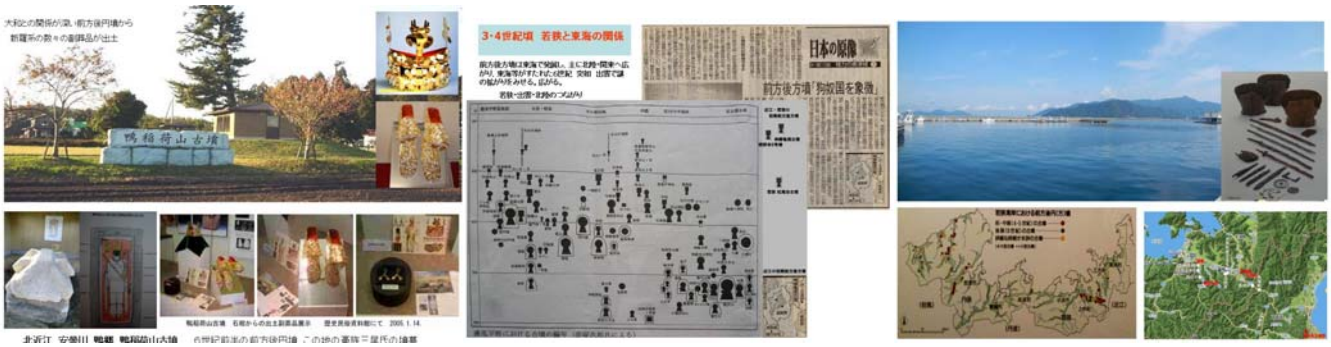
日本の黎明期　日本各地と大陸・朝鮮半島を結んだ海人族の人たちがいた

「和鉄の道・Iron Road」から見た日本誕生前夜の北近江・若狭

大陸・朝鮮半島の玄関口として　北近江・若狭が輝いた古代

2011.12.1.　by Mutsu Nakanishi



日本黎明の時代　北部九州沿岸を根拠地とし、航海術に秀で、日本と大陸・朝鮮半島の交流の役割を果たした「海人」の集団「安曇族」。　「滋賀県高島市安曇川」や「長野県松本市　安曇野」「福岡市志賀島」など　この「安曇族」が日本各地に展開したと考えられている関連地の人たちが連携して交流しようとする「安曇ネットワーク」が結成され、地域交流活動が行われている。

このネッツトワークの推進にかかわっている仲間から

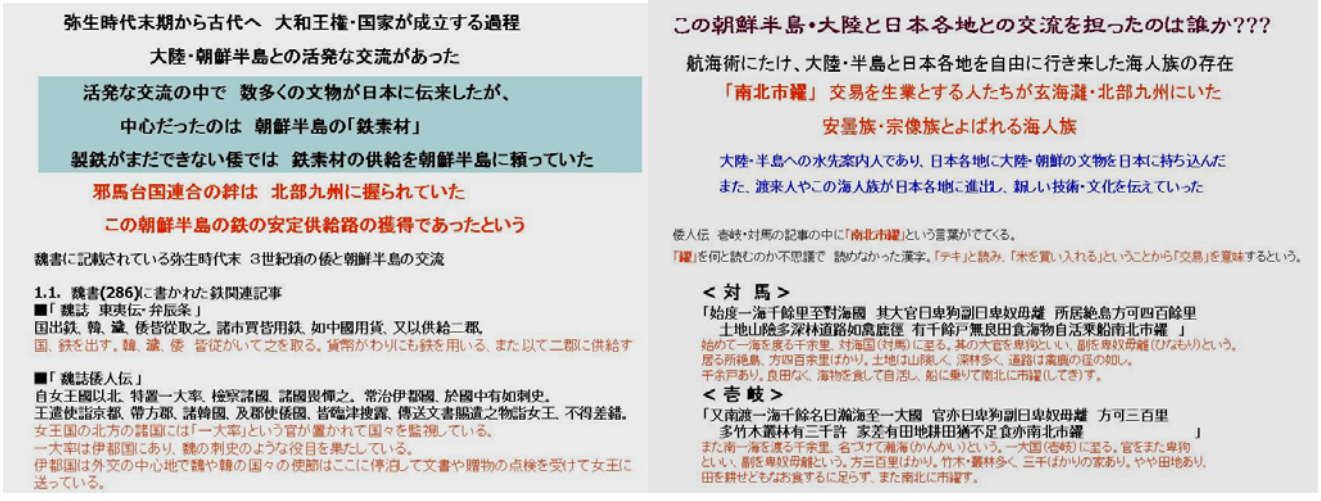
「この安曇族の交易・歩いた道を知るうえで「朝鮮半島の鉄」の理解が重要と思うので、一度話を聞かせてほしい」

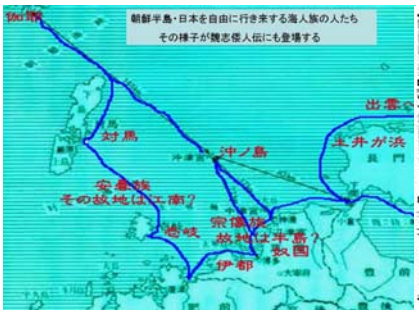
との話があり、滋賀県高島市安曇川の「安曇あずみの会」の勉強会でプレゼンの機会をいただきました。

北近江　高島は鉄と関連の深い継体天皇の故郷であり、また、大陸・朝鮮半島と大和とを結ぶ交流路の日本海側の窓口として初期大和王権と連動した前方後円墳がいち早く築かれた「若狭」と一体の地、朝鮮半島の鉄素材の流入路としても重要な地であり、また、この近江は数多くの渡来人が住み、製鉄技術初め、数々の渡来技術がみあきあげられた地でもあり、私の言う「和鉄の道」の重要点。　いまだに謎が解けぬ　製鉄技術伝来の謎がこの若狭・近江の痕跡から解けないものかとも考えていた矢先で、「『和鉄の道・Iron Road』から見た日本誕生前夜の北近江・若狭　-大陸・朝鮮半島の玄関口として　北近江・若狭が輝いた古代」と題して　12月1日　午後　滋賀県高島市　安曇川で鉄にかかわった北近江・若狭に残る製鉄関連遺跡と関連地について紹介させてもらった。

本資料は　安曇あずみの会でのプレゼンスライドなどを再整理して集めたものです。

3世紀の後半　卑弥呼の時代　中国の史書**「魏志　東夷伝」**には**「国出鉄、韓、濊、倭皆従取之。諸市買皆用鉄、如中國用貨、又以供給二郡**(国、鉄を出す。韓、濊、倭　皆従がいて之を取る。貨幣がわりにも鉄を用いる、また以て二郡に供給す)」と記され、また、**「魏志倭人伝の対馬や壱岐」**の記事には「**「南北市糴**(朝鮮半島や日本各地と交易する)」 と記されている。





倭人傳

倭人在帶方東南大海之中依山島爲國邑舊百
餘國漢時有朝見者今使譯所通三十國從郡至
倭循海岸水行歷韓國乍南乍東到其北岸狗邪
韓國七千餘里始度一海千餘里至對海國其大
官曰卑狗副曰卑奴母離所居絶島方可四百餘
里土地山險多深林道路如禽鹿徑有千餘戸無
良田食海物自活乘船南北市糴又南渡一海千
餘里名曰瀚海至一大國官亦曰卑狗副曰卑奴
母離方可三百里多竹木叢林有三千許家差有
田地耕田猶不足食亦南北市糴又渡一海千餘
里至末盧國有四千餘戸濱山海居草木茂盛行
不見前人好捕魚鰒水無深淺皆沈沒取之東南
陸行五百里到伊都國官曰爾支副曰泄謨觚柄
渠觚有千餘戸世有王皆統屬女王國郡使往來

弥生の終り　日本の国づくりが始まる頃　朝鮮半島と北部九州・日本各地との交流が盛んになる頃　北部九州の玄界灘周辺には航海術に秀でた「海人」の集団がいて、朝鮮半島・大陸と日本各地を結ぶ交易を生業とする人たちがいて、その人たちが担う交易によって、数々の文物・技術・渡来人が日本にやってきて、その後の日本の国づくりの原動力になったという。

この時代　大陸や朝鮮半島は戦乱の時代であり、日本列島でも北部九州や日本各地に興った国がそれぞれ、力を増し、そして大和王権に集約されていく過程　言い換えれば、弥生の戦のあと日本統一へ「日本誕生」前夜の混乱の時代と言える。

この時代　大陸・朝鮮半島と日本との交流の中心には「朝鮮半島の鉄素材」があったといわれ、北部九州に握られていた朝鮮半島の鉄素材の交易支配から脱し、このルート支配を目指した連合が邪馬台国連合（初期大和王権連合）だったとも言われている。

周囲を海に囲まれた日本では、このような日本列島を巡る交易ネットワークは縄時代からすでに形成されていたといわれ、数多くの集団が文物・技術を伝え、交流してきたといわれるが、この時代九州北部沿岸を本拠地として、これら朝鮮半島・大陸との交易・交渉に大きな役割を演じた「海人」の集団として「安曇族」や「宗像族」があり、日本黎明期から古代　日本各地で活躍したといわれ、そんな人たちの痕跡が日本各地に残っている。

「安曇族」の集団の本拠地「志賀島」の「志賀」「安曇」をキーワードとして地名を検索し、日本各地に残る関連地を探ったインターネット掲載例を下記に記した。

「アズミ」「シガ」の音で調べられた
安曇族関連地　検索例

日本の黎明期　日本各地と大陸・朝鮮半島を結んだ海人族の人たちがいた

「和鉄の道・Iron Road」から見た日本誕生前夜の北近江・若狭

大陸・朝鮮半島の玄関口として　北近江・若狭が輝いた古代

2011.12.1.　北近江安曇川にて　by Mutsu Nakanishi

≪　プレゼンの内容　≫

1. 大和王権の成立前夜　大陸・朝鮮半島交易を担った玄界灘の海人族
   近江安曇川の地名の元となった海人族「安曇族」
2. 大陸・朝鮮半島や東国への大和の玄関口　若狭・北近江の和鉄の道を訪ねる
   2.1. 安曇川の左岸　琵琶湖を見晴らす饗庭野丘陵
   多量の鉄素材を出土した熊野本弥生集落遺跡と古墳時代前期の古墳群熊野本古墳群
   2.2. 丹後にとってかわった大和の玄関口　若狭/北近江
   5世紀　若狭国　初期前方後円墳の王墓群　脇袋古墳群
   2.3. 若狭と大和そして　朝鮮半島交流との深い関係を示す若狭
   遠敷川(おにゅうがわ)　「鵜の瀬の水送り」
3. 近江は鉄の国　古代近江で育てられた量産型たたら製鉄
   鉄を必要とする拠点での古代製鉄コンビナートのベースを作った

◎　わたしのlife work　スライド「和鉄の道・Iron Road　たたら製鉄遺跡探訪　」　約15分

弥生末期から古代奈良時代にかけて　大陸・朝鮮半島との最大の交易品は「朝鮮半島の鉄素材」
その鉄を日本に持ち込んだ航海術にたけた海人族・渡来人たちがいた。
古墳時代から古代　大陸・朝鮮半島への大和の日本海側玄関口として「輝いた北近江・若狭」の時代でもある。

文物ばかりでなく、数多くの人たちが行き来し、新しい文化・技術が息づき、交易を生業として　大陸・日本各地をめぐる航海術にたけた人たち海人族と呼ばれる人たちが活躍し、この海人族や渡来人が朝鮮半島・大陸と日本の交流を支え、日本各地に文化・技術を伝え、日本の国づくりに大きな役割を演じつつ、日本各地に定住していった。
北近江・若狭にもそんな人たちが数多くおり、大和との連携しつつ、大きな役割をしたと考えられている。
北近江　安曇川はそんな海人族の人たちがいた痕跡が、安曇川の地名に残っている。

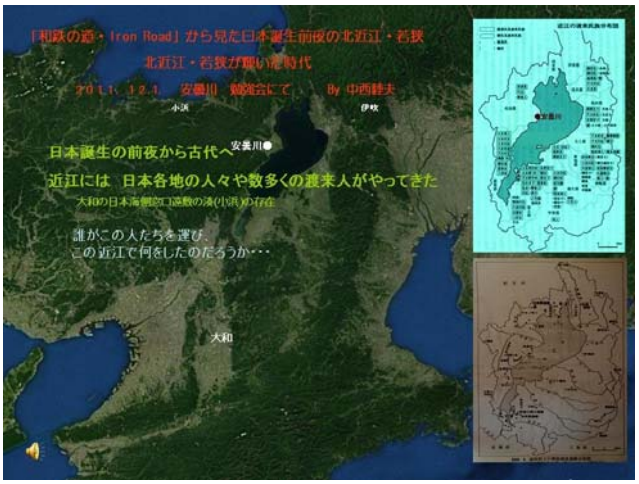
この時代の交易の中心は朝鮮半島の鉄素材。　その鉄が若狭・北近江を通って、日本各地に広がり、数々のドラマを生み、素晴らしい景色を作っていった。自分たちの町の祖先たちがその過程に大きな役割を果たしていたと考えてみてください。
そんな「鉄」の景色のスライド集を最後に見ていただき、まとめとします。

【　プレゼン　ベース資料　】

和鉄の道・Iron Road　製鉄関連遺跡探訪　　Data Base　全リスト

◎　http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/ironalllist.htm

1. 「和鉄の道・Iron Road」　北近江 安曇川・マキノ　雪の山郷　Country walk　5iron01.pdf
2. 「和鉄の道・Iron Road」　南北市羅（してき）　朝鮮半島と倭を結ぶ「和鉄の道」　11iron08.pdf
3. 「和鉄の道・Iron Road」　卑弥呼の時代からの大陸への玄関口　若狭・北近江の「若狭街道」
   大陸・朝鮮半島の鉄をむ求めて続く若狭・北近江の「和鉄の道」を訪ねて　8iron09.pdf
4. 「和鉄の道・Iron Road」　古墳時代朝鮮半島との交流玄関口「若狭」を再度訪ねる　11iron10.pdf
5. 「和鉄の道・Iron Road」　愛媛大・今治市共同シンポジュウム
   「鉄 と古代国家　今治に刻まれた鉄の歴史」　6iron15.pdf
6. 「和鉄の道・Iron Road」　古代官営大製鉄コンビナートに発展させた近江の製鉄技術　7iron03.pdf
7. 「和鉄の道・Iron Road」　北近江　古橋製鉄遺跡(2005夏 青春18きっぷ 普通電車日帰りWalk)　5iron13.pdf
8. 「和鉄の道・Iron Road」　無手勝流で 鉄をキーワードに 弥生から邪馬台国・大和王権への変遷を整理
   2010年秋 関西各地の博物館特別展とシンポジュウム & 連続講演会 聴講まとめ　10iron13.pdf



2011.12.1. 北近江 安曇川 勉強会 プレゼン資料

中西 睦夫

「和鉄の道・Iron Road」から見た日本誕生前夜の北近江・若狭

北近江・若狭が輝いた時代

1. 大和王権の成立前夜 大陸・朝鮮半島交易を担った玄界灘の海人族
   近江安曇川の地名の元となった海人族「安曇族」
2. 大陸・朝鮮半島や東国への大和の玄関口 若狭・北近江の和鉄の道を訪ねる
   2.1. 安曇川の左岸 琵琶湖を見晴らす重層野丘陵
   多量の鉄素材を出土した熊野本弥生集落遺跡と古墳時代前期の古墳群熊野本古墳群
   2.2. 5世紀 若狭国 初期前方後円墳の王墓群 脇袋古墳群
   丹後にとってかわった大和の玄関口 若狭/北近江
   2.3. 若狭と大和そして 朝鮮半島交流との深い関係を示す
   若狭 遠敷川(おにゅうがわ)「鵜の瀬の水送り」
3. 近江は鉄の国 古代近江で育てられた量産型たたら製鉄
   鉄を必要とする拠点での古代製鉄コンビナートのベースを作った

● わたしのlife work「和鉄の道-Iron Road たたら製鉄遺跡探訪 スライド」 約5分

弥生末期から古代原点時代にかけて 大陸・朝鮮半島との最大の交易品が「鉄」
その鉄を目当てに時を込んだ航海術にたけた海人族・渡来人たち。
その鉄が若狭・北近江を通って、日本各地にばら撒、鉄へのドラマを生み、素晴らしい墓地を作っていった。
自分たちの町の祖先たちが それに大きな役割を果たしていたと考えてみて下さい。
そんな「鉄の墓地のスライド」集をお見せしたい。

北近江・若狭の話をする前に　私の視点

鉄鋼メーカーに勤めた鉄鋼材料・溶接のエンジニア まったくのど素人の勉強です

日本各地の製鉄遺跡・製鉄関連遺跡や「鉄」の伝承を訪ねてCountry Walk を楽しんでいます

和鉄の道 ・ Iron Road

縄文人(山)を望むすばらしい景色の森に村を作った
製鉄集団の住む(高温・谷筋・浜にも)素晴らしいドラマと四季がある

和鉄の道 Iron Road 製鉄遺跡・製鉄関連伝承地 探訪マップ

木行実・雲来末・風来末
風来坊 Country Walk

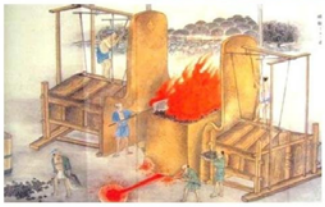
Key Word
・たたら製鉄遺跡
・製鉄遺跡関連地
・鉄のモニュメント
・鉄・鍛冶の伝承地
・山・谷・街道・街・海・浜

和鉄の道を訪ねて歩いた 北近江・若狭について 私の見聞記をお話しします

北近江・若狭の話をする前に　私の視点

日本古来の製鉄技術 「たたら製鉄」をご存知でしょうか・・・・・・

鉄の不思議　鉄の謎　また 日本各地に数々の伝承が残っている



塊錬鉄 製鉄法（直接製鉄法 ）

鉄鉱石・砂鉄などを比較的低い温度で加熱。
溶かさずに半溶融状態のまま還元して 海綿状の鉄や鉄塊を得る。
ここの塊を再度加熱精錬・鍛造。不純物を押し出すとともに 炭素量も調整して、強靭な鋼を得る。この鉄素材を塊錬鉄という。
「たたら」製鉄・ヒッタイトの初期製鉄法もこれである

北近江・若狭の話をする前に　私の視点

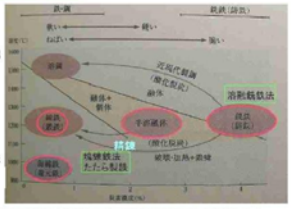
日本古来の製鉄技術 「たたら製鉄」をご存知でしょうか・・・・・・

たたら製鉄法　溶かさずに塊のまま強靭な「鋼」を作る日本古来の製鉄法

■ 「たたら製鉄」砂鉄を原料とした日本独自の直接製鉄法

塊錬鉄 製鉄法（直接製鉄法 ）

鉄鉱石・砂鉄などを比較的低い温度で加熱。
溶かさずに半溶融状態のまま還元して 海綿状の鉄や鉄塊を得る。ここの塊を再度加熱精錬・鍛造。不純物を押し出すとともに 炭素量も調整して、強靭な鋼を得る。この鉄素材を塊錬鉄という。
「たたら」製鉄・ヒッタイトの初期製鉄法もこれである



溶融銑鉄 製鉄法（間接製鉄法）

鉄鉱石を高温に加熱して、鉱石を溶融しながら還元して鉄を得る。この時 高温のため、鉄は大量の炭素を吸って、脆い鉄鉄となる。
この鉄鉄を再度加熱溶融して、鉄鉄中の炭素を燃やして、鉄鉄中の炭素を燃やして 炭素調整して強靭な鋼を得る 現代の製鉄法 ならびに 中国では古代からこの方法が発展した

中国(漢代後半)には既に溶融鉄鉄から鋼を作る間接製鉄法が実用されていた

北近江・若狭の話をする前に　私の視点

世界どこにもない素晴らしいたたら製鉄法と鉄　この製鉄の不思議・・・・・

日本に鉄が伝来したのは弥生時代の初め
それから日本で製鉄が始まるまで、800～900年後の6世紀
　なぜ こんなに時間がかかったのか・・・・・
必死に朝鮮半島の鉄素材を手に入れようとした倭国
そして 日本誕生に大きくかかわった鉄・各地に数々の伝承が乗る
鉄から日本の歴史が見えてくる

この製鉄技術は当時 東アジア・朝鮮半島・中国何処にもない技術
紀元前10世紀頃 ヒッタイトが始めた製鉄技術そのものでした
それが、明治時代まで続く
そのたたら製鉄でできた鉄は今も現代の製鉄法では再現できない

鉄は錆びるものの代名詞 でも 古代の鉄は錆びないのだろうか・・・・・

現代の製造法ではできない「たたらの鉄」

◎ 法隆寺の解体修理には 古代たたら製鉄で復元された釘がつかわれた
◎ 刀匠は今もたたら製鉄の「玉鋼」を素材に刀を打つ

北近江・若狭の話をする前に　私の視点

日本各地に残る数々の製鉄関連伝承

「鉄」が文明を発展させ、平和で豊かな暮らしを展開させた半面 その力の大きさゆえ、戦争・差別を持ち込んだのか??

● 鬼伝説の中に たたら衆・鬼がいた郷土を誇る「東北」 畿内などとは異なる意識がある
鬼が住む山 奥羽山脈の峰々を誇りに思う宝々と市民憲章に掲げる北上市。そして 岩手県民おげての寄付で作られた蝦夷の棟梁のアニメ映画「アテルイ」・ 高橋克彦 第34回吉川英治文学賞『火怨』
中央を流れる北上川の西に奥羽山脈 東に北上山地 両方に険しい仙人峠があり、そのどちらでも鉄を産する。
(釜石の製鉄 大槌町小林家の製鉄絵巻 釜石から久慈へ点々と製鉄遺跡 砂鉄海岸が続く)
また、鬼の住む山 青森岩木山(巌鬼山) 山から北に流れる川には砂鉄があり、歩沢製鉄遺跡など古代の製鉄遺跡があり、
鬼と刀鍛冶の伝承が残る十腰内 鬼の里として弘前ねぶたを運行する「鬼沢」そこには鉄の農耕具が奉納される鬼神社がある。

1. 鉄の技術を持ってやってきた集団には「開拓神」として数多くの伝承が日本各地に残る
   弥彦の神 三輪山の大物主命・オオナムチ・スサノオ 但馬の天日槍 物部氏とニイハヤギ
2. 後世 たたら製鉄の砂鉄採取のための山の切り崩が流域河口部に豊かな平野部を作った
   太田川と広島 揖保川と赤穂 斐伊川と出雲
3. 「鉄」が戦争を持ち込んだのか ?? 鬼の伝承 ・弥生の環濠集落 ・ 卑弥呼・大和王権の絆は鉄の支配力??

「鬼」の名が残る山や鬼の住む山々が日本各地に鬼の伝承と共に残っている
大江山・伯耆大山・英彦山・東北日高見の鬼・蝦夷 アテルイ 鬼面山・巌鬼山・鬼ケ城・鬼岳・鬼壁等々

北近江・若狭の話をする前に　私の視点

何処へ行っても だれとても すぐ話ができる「鉄」

「たたら」を訪ねると 素晴らしい日本の景色 山・川・海 そして文化に出会えます

日本各地の製鉄遺跡・製鉄関連遺跡や「鉄」の伝承を訪ねてCountry Walkを楽しんでいます

北近江・若狭の話をする前に　私の視点

ユーラシア大陸の西の端で生まれた人工鉄の製造法がユーラシア大陸を横断して 日本に伝わった。

ユーラシア大陸を横断する「絹の道 シルクロード」の前に「鉄の道 Iron Road」があり、そこでは 数々のドラマが繰り広げられ、東へ伝わってきた。

この鉄の道は 日本国内にはいっても 同じく 数々のドラマを展開してきた。

「 ユーラシア大陸の西端から日本へ

「鉄の道」で繰り広げられた数々のドラマ」「日本誕生に間違いなくかかわった鉄」を紐解いてみたいと。 」

「鉄」の話を持ち出すだけで、必ずと言っていいほど どこでも 話が弾むのが 面白くて もう かれこれ 10数年続けています。

ただ 日本に散らばる製鉄遺跡を訪ね、其処にたたずむだけの「風来坊のCountry Walk」ですが、素晴らしい日本の原風景・四季に出会える素晴らしい日本の原風景・四季に出会えるとともに、「たたら」製鉄・「鉄の道」が見せる顔には、現代の知恵に通ずるものが数多くあると。

鉄の見せる表情 まばゆい「閃光」とくろがねの「肌光」 いまも こんな美しいものはないと思っています。

2008.4.23. Mutsu NMakanishi

北近江・若狭にも そんな鉄の痕跡 和鉄の道を訪ねて 何度が訪ねました

鉄の作った風景の話はあとで スライドでお見せして、 本題の話に・・・・

北近江・若狭の話をする前に　私の視点

今日は 和鉄の道を訪ねて歩いた北近江・若狭について 私の見聞をお話しします

弥生時代の終末期 卑弥呼の時代　　また、大陸・朝鮮半島では戦乱の時代に

朝鮮半島の鉄が日本海交流の中心に　　戦乱を逃れた多数の渡来人が文化・技術を伝える

大和の大陸・朝鮮半島への玄関口として 丹後・若狭が重要拠点

この大陸・朝鮮半島との交流を支えたのは誰か ??

⇔ 航海術に秀でた玄海灘の「海人」の集団の存在

航海術にすぐれ、朝鮮半島・日本各地を自由に行き来する集団

安曇族・宗像族

この人たちが 若狭・北近江へもやってきていた痕跡がある

◎ 若狭・近江に残る朝鮮系遺物や地名

鉄素材・新羅系遺物・地名など

・ 若狭小浜の古地名「遠敷」

・ 地名 安曇川・和邇・百済・新羅

等々

北近江・若狭の話をする前に　私の視点　安曇川

北近江・若狭の話をする前に　私の視点　安曇川

鴨稲荷山古墳　石棺からの出土副葬品展示　歴史民俗資料館にて　2005. 1. 14.

北近江 安曇川 鴨郷 鴨稲荷山古墳　6世紀前半の前方後円墳 この地の豪族三尾氏の墳墓

北近江・若狭の話をする前に　私の視点　安曇川

琵琶湖西北の湖岸 安曇川の北側に広がる新旭町熊野本周辺から饗庭野丘陵地　2008.9.1.

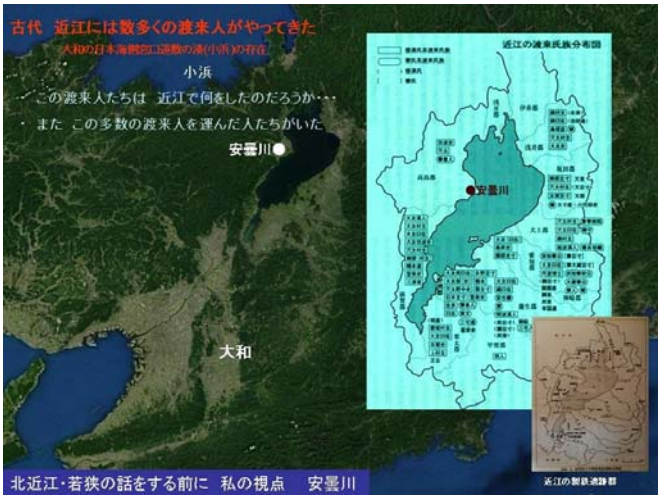
丘陵地中央下段（○印）の丘が熊野本弥生遺跡と熊野本古墳群

BC1～AC1世紀 鉄鍛冶工房があったと推定される弥生の集落があり、

大量の鉄滓物と まだ製鉄が始まっていない時期 朝鮮半島から持ち込まれた鉄素材が出土

3世紀 卑弥呼の時代 東海に先立つ初期の前方後方墳が出土(熊野本6号墳)

また 数多くの古墳前期～中期の前方後方墳があり、弥生集落に引き続くこの地の首長墓とみられる



「和鉄の道・Iron Road」から見た日本誕生前夜の北近江・若狭

北近江・若狭が輝いた時代

1. 大和王権の成立前夜　大陸・朝鮮半島交易を担った玄界灘の海人族
   近江安曇川の地名の元となった海人族「安曇族」
2. 大陸・朝鮮半島や東国への大和の玄関口　若狭・北近江の和鉄の道を訪ねる
   - 2.1. 安曇川の左岸 琵琶湖を見晴らす鞭原野丘陵の麓 BC1世紀～古墳時代 北近江の中心地
     多量の鉄素材を出土した熊野本弥生集落遺跡と古墳時代前期の古墳群熊野本古墳群
   - 2.2. 5世紀 若狭国 初期前方後円墳の王墓群　脇袋古墳群
     丹後にとってかわった大和の玄関口 若狭/北近江
   - 2.3. 若狭と大和そして 朝鮮半島交流との深い関係を示す
     若狭 遠敷川(おにゅうがわ)「鵜の瀬の水送り」
3. 近江は鉄の国 7-8世紀　古代の近江で育てられた量産型たたら製鉄
   東北・九州・新潟(越)など 古代の重要拠点での古代製鉄コンビナートのベースを作った

● わたしのlife work「和鉄の道-Iron Road たたら製鉄遺跡探訪 スライド」 約15分

弥生末期から古代奈良時代にかけて 大陸・朝鮮半島との最大の交易品は「鉄」
その鉄を日本に持ち込んだ最海側にたけた海人族・渡来人たち。
その鉄が若狭・北近江を通って、日本各地に広がり、数々のドラマを生み、素晴らしい景色を作っていった。
自分たちの町の祖先たちが それに大きな役割を果たしていたと考えてみてください。
そんな「鉄」の景色のスライド集をお見せしたい。

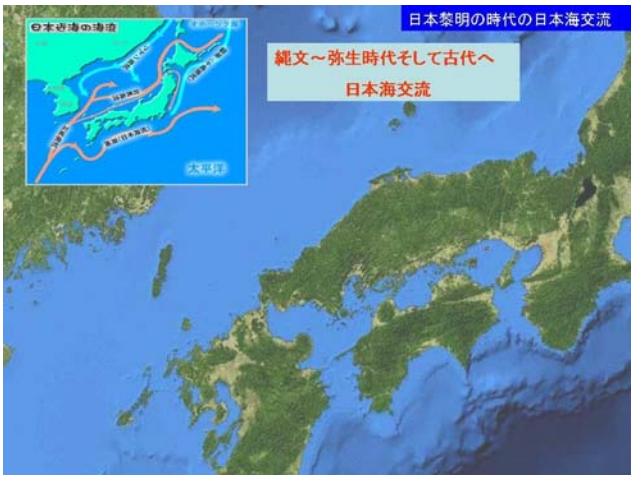
日本黎明の時代の日本海交流

周囲を海に囲まれた日本　安曇・宗像など「海人」の集団の前　縄文時代から琉球から北海道まで日本の沿岸交流は盛んに行われた

◎ 縄文時代から 日本海沿岸では相互に活発な交流・交易がおこなわれた
　翡翠・漆・黒曜石・漆ほか
◎ 弥生時代から古墳時代には北部九州・朝鮮半島・大陸を含む一つの交易圏
　数多くの文物が伝来し、日本各地に伝播して行った
　鉄・穀物・勾玉・織物ほか
◎ 弥生末期から古墳時代 朝鮮半島・中国は戦乱の時代 数多くの渡来人が
　何度も海を渡って日本にやってきた

これら大陸・朝鮮半島と日本各地を結ぶ航海術にたけた人々

北部九州を拠点とする「海人」集団の存在



日本黎明の時代の日本海交流

日本海沿岸の交流を語る数々の伝承・説話が残っている

日本黎明の時代の日本海交流

若狭 鳥浜貝塚遺跡から出土した丸木舟

若狭町内では 鳥浜貝塚から2艘、ユリ遺跡から4艘、合計6艘の縄文時代の丸木舟がみつかっています。これらがつくられたのは縄文時代前期(約6300年前)から晩期(約2800年前)にわたっています。

日本黎明の時代の日本海

日本各地に運ばれた糸魚川の翡翠

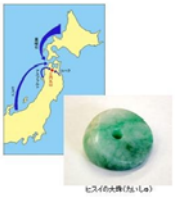
沼河比売伝説　出雲と越とのつながりを示す

沼河比売 『古事記』の伝承

八千矛神(大国主)が高志国の沼河に住む沼河比売を妻にしようと思い、高志国に出かけて沼河比売の家の外から求婚の歌を詠んだ。
沼河比売はそれに応じる歌を返し、翌日の夜、二神は結婚した。

新潟県糸魚川市に残る伝承では、大国主と沼河比売との間に生まれた子が建御名方神で、姫川をさかのぼって諏訪に入り、諏訪大社の祭神になったという。

奴奈川姫と建御名方命の像



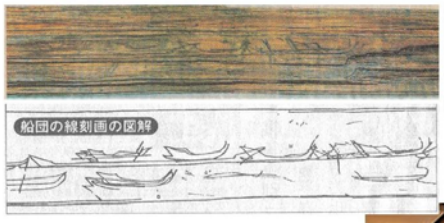
三内丸山遺跡の翡翠

日本黎明の時代の日本海交流

朝鮮半島との交流を示す説話と日本海を行く船団

新羅　天日槍伝説の兵庫県出石　袴狭(はかざ)遺跡

1994年、15艘の準構造船が描かれた長さ197.3cm　巾16.1cm のスギ板が出土し、話題を呼びました。彼等はこんな船に乗って渡来したのでしょうか？



但馬地方の中央を日本海に向かって北に流れる円山川の支流の出石川のさらに支流、袴狭川の流域にある弥生時代から古墳時代の遺跡で、日本海へは直線距離にして約18kmのところにある。

豊岡盆地東部　西側以外の三方を、標高150 m前後の山によって囲まれた谷の狭い平地で、東から西へ緩やかに傾斜しています。この平地部の南側の山麓を流れる袴狭川沿いの標高約5～10mの低湿地に、袴狭遺跡は広がっています。

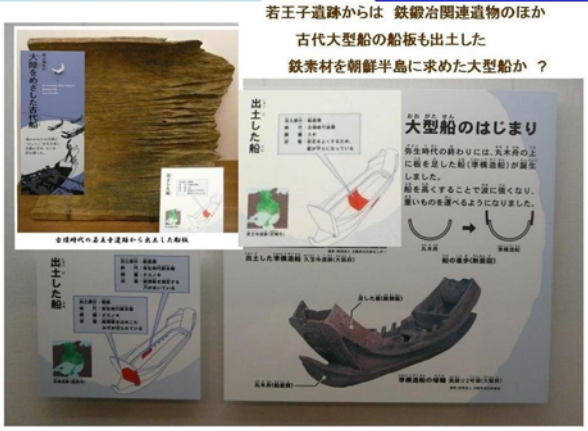
この遺跡には天日槍命を埋葬したとの伝承もある。

復元された古代船

朝鮮半島との交流を示す説話と日本海を行く船団

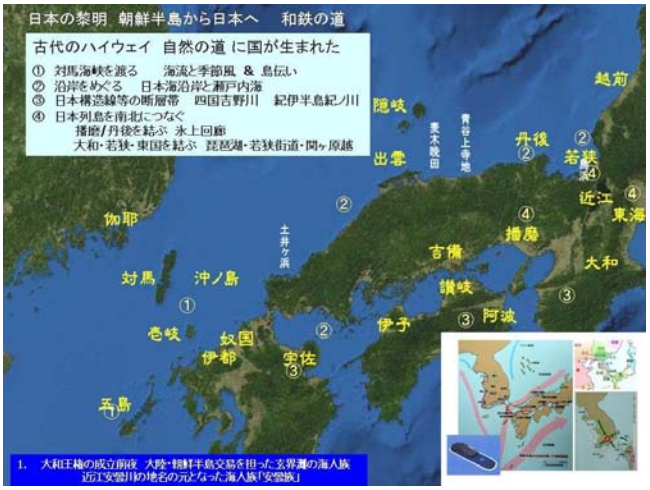
日本黎明の時代の日本海交流

若王子遺跡からは　鉄鍛冶関連遺物のほか
古代大型船の船板も出土した
鉄素材を朝鮮半島に求めた大型船か ？



1.　大和王権の成立前夜　大陸・朝鮮半島交易を担った玄界灘の海人族
近江安曇川の地名の元となった海人族「安曇族」

集団同士の交流を通じて文物が流通し、国が誕生していった
国土を開拓する農耕具、争いの武器、そして　威信財(強さの誇示)
鉄の争奪が交流の中心に

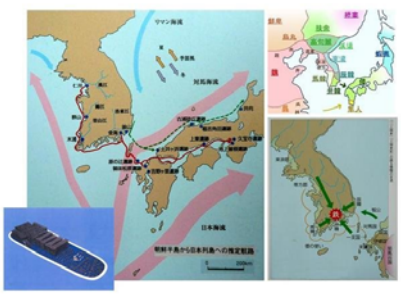


1.　大和王権の成立前夜　大陸・朝鮮半島交易を担った玄界灘の海人族
近江安曇川の地名の元となった海人族「安曇族」

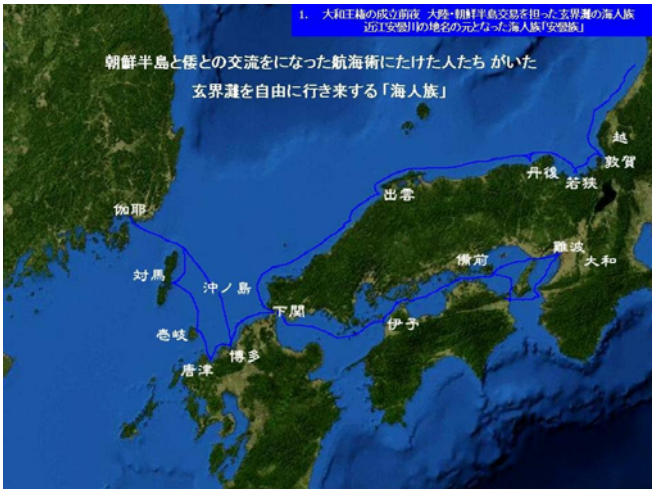
日本黎明の時代の日本海交流

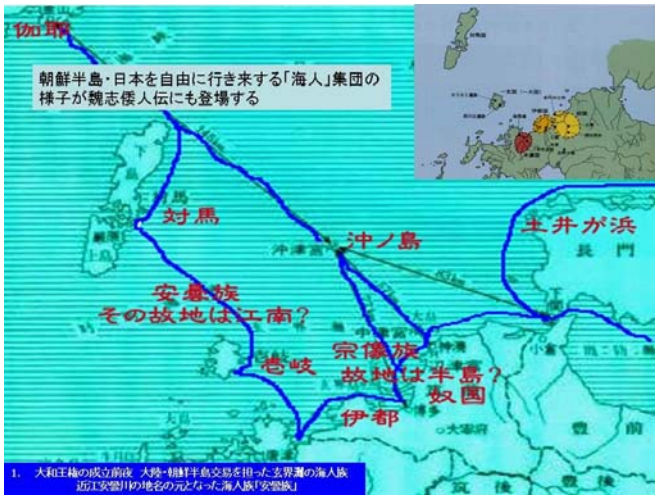
弥生時代の終末期　卑弥呼の時代　　また、大陸・朝鮮半島では戦乱の時代に
朝鮮半島の鉄が日本海交流の中心に　　戦乱を逃れた多数の渡来人が文化・技術を伝える

大和の大陸・朝鮮半島への玄関口として　丹後・若狭が重要拠点



この大陸・朝鮮半島との交流を支えたのは誰か?? ⇔ 玄海灘の海人族の存在





活発な交流の中で 数多くの文物が日本に伝来したが、
中心だったのは 朝鮮半島の「鉄素材」
製鉄がまだできない倭では 鉄素材の供給を朝鮮半島に頼っていた

邪馬台国連合の絆は 北部九州に握られていた
この朝鮮半島の鉄の安定供給路の獲得であったという

魏書に記載されている弥生時代末 3世紀頃の倭と朝鮮半島の交流

魏書(286)に書かれた鉄関連記事
■「 魏誌 東夷伝・弁辰条 」
国出鉄、韓、濊、倭皆従取之。諸市買皆用鉄、如中國用銭、又以供給二郡。
国、鉄を出す。韓、濊、倭 皆従がいて之を取る。貨幣がわりにも鉄を用いる、また以て二郡に供給す

■「 魏誌倭人伝 」
自女王國以北、特置一大率、檢察諸國、諸國畏憚之。常治伊都國、於國中有如刺史。
王遣使詣京都、帶方郡、諸韓國、及郡使倭國、皆臨津捜露、傳送文書賜遺之物詣女王、不得差錯。
女王国の北方の諸国には「一大率」という官が置かれて国々を監視している。
一大率は伊都国にあり、魏の刺史のような役目を果たしている。
伊都国は外交の中心地で魏や韓の国々の使節はここに停泊して文書や贈物の点検を受けて女王に送っている。

この朝鮮半島・大陸と日本各地との交流を担った

航海術にたけ、大陸・半島と日本各地を自由に行き来した「海人」集団

「南北市糴」 交易を生業とする人たちが玄海灘・北部九州にいた

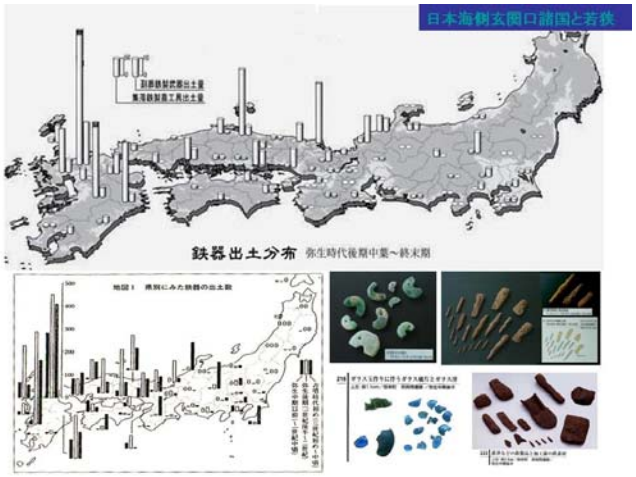
安曇族・宗像族とよばれる海人の集団

大陸・半島への水先案内人であり、日本各地に大陸・朝鮮の文物を日本に持ち込んだ
また、渡来人やこの海人族が日本各地に進出し、新しい技術・文化を伝えていった

倭人伝 壱岐・対馬の記事の中に「南北市糴」という言葉がでてくる。
「糴」を何と読むのか不明瞭で 読めなかった漢字。「テキ」と読み、「米を買い入れる」ということから「交易」を意味するという。

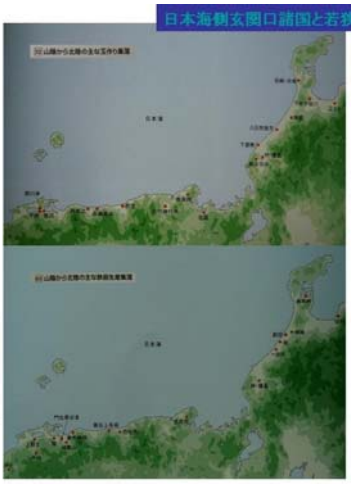
＜ 対 馬 ＞
「始度一海千餘里至對海國 其大官曰卑狗副曰卑奴母離 所居絶島方可四百餘里
土地山險多深林道路如禽鹿徑 有千餘戸無良田食海物自活乘船南北市糴 」
始めて一海を度る千余里、対海国(対馬)に至る。其の大官を卑狗といい、副を卑奴母離(ひなもり)という。
居る所絶島、方四百余里ばかり。土地は山険しく、深林多く、道路は禽鹿の径の如し。
千余戸あり、良田なく、海物を食して自活し、船に乗りて南北に市糴(してき)す。

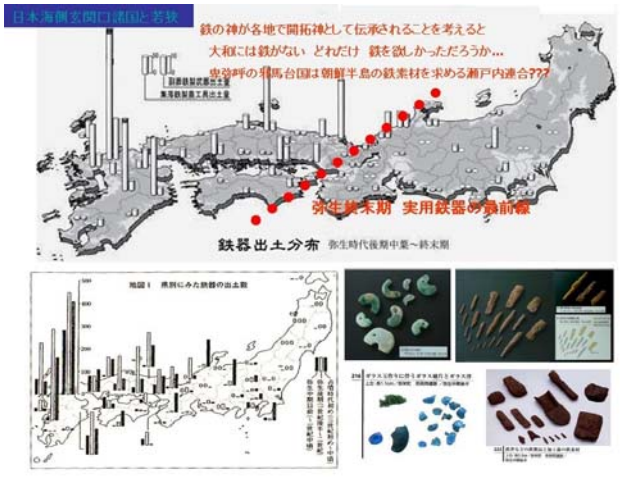
＜ 壱 岐 ＞
「又南渡一海千餘名曰瀚海至一大國 官亦曰卑狗副曰卑奴母離 方可三百里
多竹木叢林有三千許 家差有田地耕田猶不足食亦南北市糴 」
また南一海を渡る千余里、名づけて瀚海(かんかい)という。一大国(壱岐)に至る。官をまた卑狗といい、副を卑奴母離という。方三百里ばかり。竹木・叢林多く、三千ばかりの家あり。やや田地あり、田を耕せどもなお食するに足らず、また南北に市糴す。



日本海沿岸諸国
(山陰から北陸へ) 玉造工房と鉄
弥生末期 玉造工房の展開と同時期に鉄の
集積が急伸した山陰から北陸 玉造工房と鉄

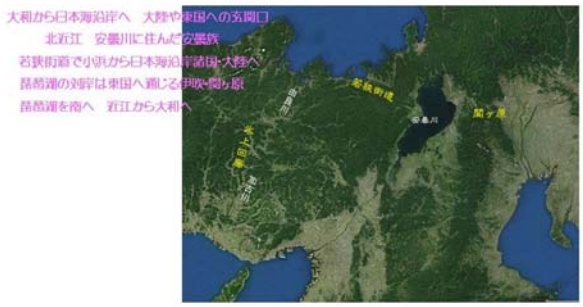
第5図 島根県平所遺跡出土
水晶産玉核残品

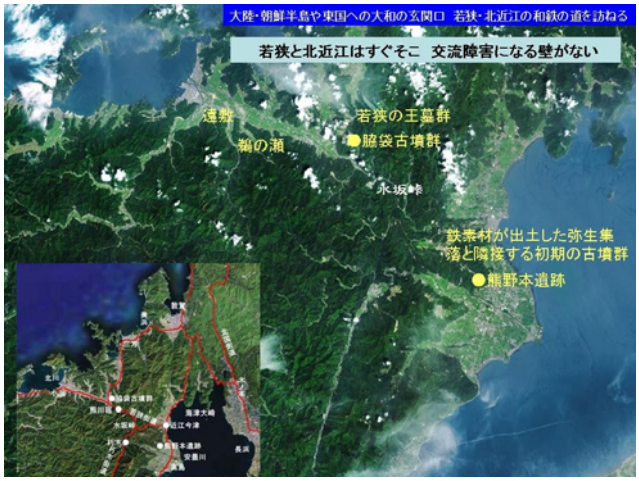




2. 大陸・朝鮮半島や東国への大和の玄関口 若狭・北近江の和鉄の道を訪ねる
2.1. 安曇川の左岸 琵琶湖を見晴らす鴨庭野丘陵
多量の鉄素材を出土した熊野本弥生集落遺跡と古墳時代前期の古墳群熊野本古墳群
2.2. 5世紀 若狭国 初期前方後円墳の王墓群 脇袋古墳群
丹後にとってかわった大和の玄関口 若狭/北近江
2.3. 若狭と大和そして 朝鮮半島交流との深い関係を示す

4世紀の丹後から 5世紀 東国への交通路が重要になり、玄関口が若狭へ





大陸・朝鮮半島や東国への大和の玄関口 若狭・北近江の和鉄の道を訪ねる

卑弥呼の時代からの大陸への玄関口 若狭・北近江の「若狭街道」
大陸・朝鮮半島の鉄をもとめて続く若狭・北近江の「和鉄の道」

- **北近江 高島市 新旭町「熊野本遺跡」 BC1～1世紀**
  北近江安曇川の北岸に連なる鴨庭野丘陵の南端 熊野本にある弥生の高地性集落 大量の鉄素材を大陸から持ち込んでいたといわれる。琵琶湖の北岸北近江から日本海沿岸・大陸への玄関口「若狭」へ向かう山越えの入り口に当たり、眼下に広がる高島平野と琵琶湖を一望できる。
  鉄の畿内流入の重要路で 早くから開かれた地であろう。 この地に弥生の大きな集落があり、入手した鉄を鉄器に加工していた。
  そして、この弥生の集落が消える時期を同じくして、この地の王たちの墳墓が築かれる。

- **北近江 高島市 新旭町「熊野本古墳群」**(熊野本遺跡の隣接地)
  3世紀 古墳時代安曇川の地を支配した王が、琵琶湖を見下ろす熊野本遺跡の尾地に築いた王墓群
  初期前方後円墳・後方墳など大和との密接な関係・鉄製品や朝鮮系遺物の副葬など大和「鉄の道」北の玄関の守りの王の色彩が濃く、この地が重要拠点だった証拠だろう。

- **若狭 若狭町 上中町 脇袋「脇袋古墳群」 5世紀**
  若狭から北近江へ遡る北川右岸の丘陵地に初期前方後円墳など大和との密接な関係を示す古墳群が築かれ手いる大和「鉄の道」北の玄関 若狭の出入口であるこの地の王墓群。大陸と大和を結ぶ重要路を守る地域首長の色彩が濃く、大和がこの地 この道を重要視していた痕跡だろう

北近江「熊野本遺跡」 BC1～1世紀 & 熊野本古墳群 3世紀

北近江「熊野本遺跡」 BC1～1世紀 & 熊野本古墳群 3世紀

鉄素材を出土した 弥生の高地性集落 熊野本遺跡

この集落には鍛冶・朱の工房があったのか…

熊野本遺跡は、弥生時代中期(約2100年前)～後期(約1900年前)の高地性集落です。
これまでに直径12mの大型の竪穴建物(たてあなたてもの)を含む竪穴建物が約40棟見つかっています。
また、鉄製品や鉄素材が多数出土していることから、鉄製品を加工・製作していた可能性が指摘されています。

遺跡の南西からは、東西12m・南北15mの弥生時代後期末の墳丘墓が見つかり、木槨跡(もっかくあと)からは水銀朱(すいぎんしゅ)とガラス小玉741点が出土しました。

墳丘裾からは人頭大の転石(ころいし)と朱を塗る際に使う手状石杵(てじょうせきしょ)が出土しています。熊野本遺跡が立つ台地状の丘陵部と、谷で隔てた北側には、円墳(えんぷん)22基・方墳12基・前方後円墳1基・前方後方墳1基で構成される湖西地域で最も規模の大きな古墳群である熊野本古墳群が所在しています。

熊野本遺跡から多量に見つかった鉄製品や鉄素材は、実態の良くわかっていない弥生時代の鉄生産の様子を知る手がかりとして、注目されています。
熊野本遺跡は、日本海沿岸地域と近畿・東海を結ぶ位置にあり、遺跡の時代は、日本列島内に鉄器文化が急速に普及する時期と重なることから、熊野本遺跡は、交通路や鉄の掌握を通じて大きな勢力を持った、湖西地域の拠点集落(きょてんしゅうらく)であったと考えられます。

集落の廃絶(はいぜつ)後、集落跡に墳丘墓が築造され、さらにこれに続いて古墳時代前期～中期にかけて首長墓群(熊野本古墳群)が営まれます。この中には発生期の前方後方墳である熊野本6号墳も含まれており、引き続き、この丘陵を含む地域が、重視されていたことがわかります。

台状墓から出土したガラス玉

朱を塗る時に使う手状石杵

北近江「熊野本遺跡」 BC1～1世紀 & 熊野本古墳群 3世紀

北近江「熊野本遺跡」 BC1～1世紀 & 熊野本古墳群 3世紀

弥生の高地性集落 熊野遺跡がある南の丘(左)と古墳群のある北の丘(右)との別れ周辺 正面に見えるのが南側の丘
そのまま、二つの丘の間の道を登りつめ、右の丘の頂上の方へ回り込むと右手のブッシュの中に「熊野本6号墳」と書かれた立て札が 倒れかけで立ち、その傍をブッシュの奥に消えかかった細い道がある。 おそらくこの古墳を巡る道だろう。

熊野本古墳群が広がる北の丘へ登りつめたところに熊野本6号墳がありました 2008.9.1

北近江「熊野本遺跡」 BC1～1世紀 & 熊野本古墳群 3世紀

卑弥呼の時代に築造された前方後方墳
この地域の首長墓 熊野本6号墳

初期前方後方墳で、東海がルーツと言われる前方後方墳のルーツは北近江とする説もある重要な古墳である

北近江「熊野本遺跡」 BC1～1世紀 & 熊野本古墳群 3世紀

北近江「熊野本遺跡」 BC1～1世紀 & 熊野本古墳群 3世紀

道路が整備され開発が放棄された北の丘 今は道も雑草に 2008.9.1.

踏跡を見つけて、ブッシュの中に入り、踏み跡を辿りにこんもり盛り上がった場所を探す。いくつもそんな場所があるのですが、古墳であるかどうか確かでない。 この辺りに 大きな円墳 前方後円墳がある辺りなのですが、結局良くわからずに出てきました。

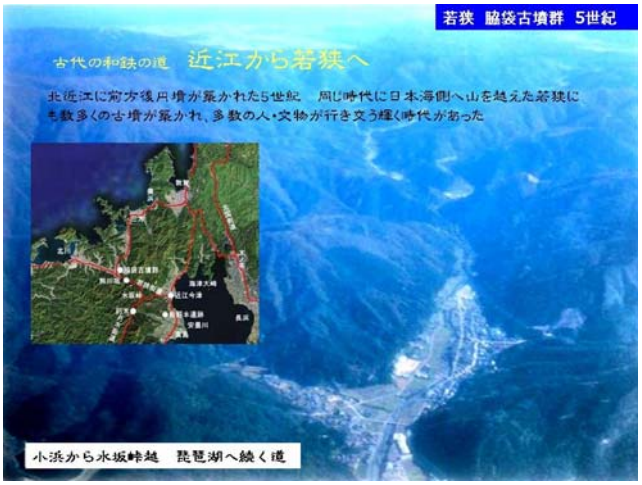
熊野古墳群が分布する北の丘 前方後円墳があるあたり 2008.9.1.
区画整理された丘陵地が放棄され、廃墟化し 雑草・雑木におおわれ、通ときえかかっていました

北近江「熊野本遺跡」 BC1～1世紀 & 熊野本古墳群 3世紀

熊野本遺跡東南の端は崖になっていて、そこからは 眼下に広がる新旭の家並み・高島平野琵琶湖が見渡せる

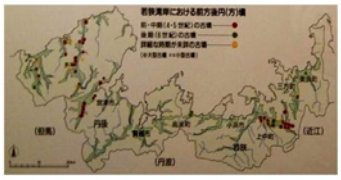
出土した「鉄片」 板状鉄素材や鉄鏃など30点以上。鉄素材は長さ29cm 幅約3cm厚さ約3mmのもの9点で、加工した跡のあるものも多い。この地で大陸から来た鉄素材を使っての鉄器の加工・製作が行われていた可能性があると考えてもらったが、鉄素材・鉄鏃の実物を見ていないので、実用品がつくられていたがどうか・・・は何ともいえず。
でも、大陸から日本海沿岸を通って若狭の湊に揚げられた鉄が すぐ近くのこの場所で鉄器に加工。 この鉄器の流れが、大和への鉄の道の始まりと考えると楽しくなる。
大和が興る前のほんとうに早い時代から 大陸・朝鮮半島から日本海沿岸・若狭を通って日本の中央 畿内へ入る鉄の道があり、それが北九州に対抗できる大和連合勢力を作り上げたのかもしれない。
若狭・北近江というとすぐに古代 遠来人・継体天皇の系譜が持ち出されるが、そのもっと前からこの地は中央を支える重要な拠点だったのだろう。

若狭 脇袋古墳群 5世紀



若狭 脇袋古墳群 5世紀

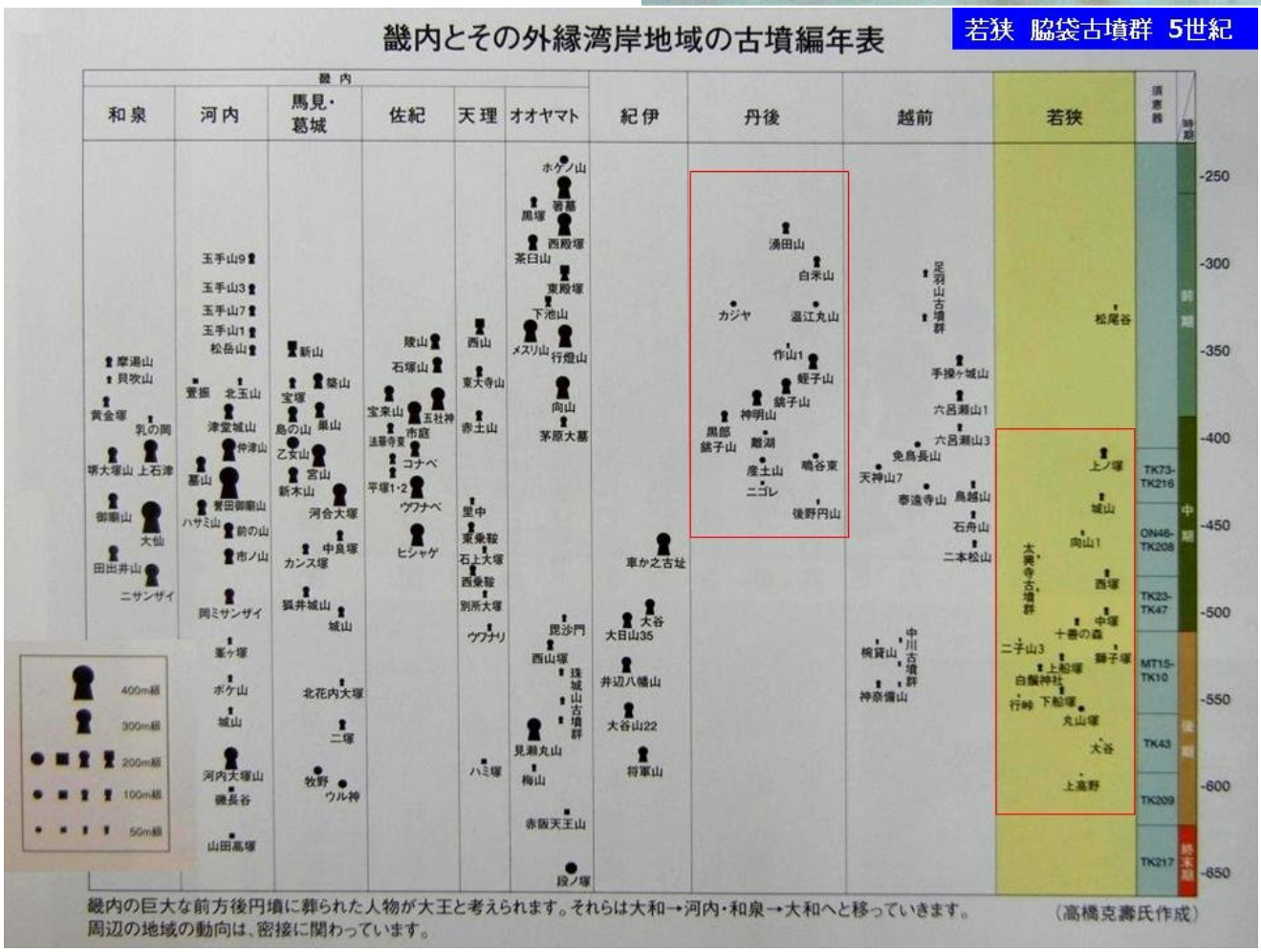
大陸・朝鮮半島への玄関口 若狭 遠敷の湊(現在の小浜港) と 若狭国の繁栄 5世紀



若狭 脇袋古墳群 5世紀

若狭 脇袋古墳群 5世紀

畿内とその外縁湾岸地域の古墳編年表



畿内の巨大な前方後円墳に葬られた人物が大王と考えられます。それらは大和→河内・和泉→大和へと移っていきます。
周辺の地域の動向は、密接に関わっています。

(高橋克壽氏作成)

北川の北岸　古代大和の鉄の道をおさえる若狭首長墓群　脇袋古墳群　5世紀

若狭町 上中町 脇袋　2008.9.1.

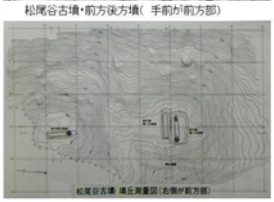
若狭 脇袋古墳群 5世紀

若狭 脇袋古墳群 5世紀

● 松尾谷古墳　4世紀後半 若狭で最古の前方後円墳に先立ち造られた前方後方墳

古墳時代前期 4世紀　松尾谷古墳出土品
若狭町歴史文化館で

松尾谷古墳・前方後方墳（ 手前が前方部）



若狭で前方後円墳に先立ち4世紀前半に造られた前方後方墳　松尾谷古墳。若狭町南前川字松尾谷の尾根にあり、若狭における最初の地域首長墳である。 前方後円墳は3期大和政権との結びつきが少し弱いか 下位に位置づけられる場合の古墳形式であるが、大和政権と若狭との連携の始まりを示している。主体部は3つ。それぞれ木棺が直葬され、出土したものとしてヤリガンナ・碧玉製管玉鉄剣、鉄槍、鉄鏃などが知られている。しかし、すでに水源地建設の為、消滅しているという。

若狭 脇袋古墳群 5世紀

● 日本最古の横穴式石室 5世紀半の前方後円墳 向山1号墳

脇袋古墳群の西1.5kmの尾根上に造られた前方後円墳で、
日本最古の横穴式石室を持ち、韓国あるいは九州から伝わったと考えられている。
中規模ながら2段に造られ、葺石・埴輪を備え、数多くの鉄器など多彩の副葬品が出土した。

古墳時代 中期　5世紀　向山1号墳からの出土鉄製品　若狭町歴史文化館で

若狭 脇袋古墳群 5世紀

● 西塚古墳　脇袋古墳群 5世紀後半の前方後円墳

西塚古墳　（若狭歴史博物館より　撮影日 未確認 2008.9.1.

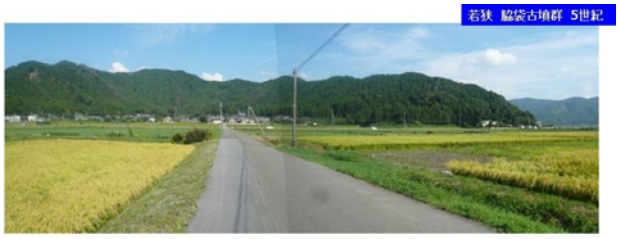
西塚古墳　（若狭歴史博物館の前方後円墳）

脇袋古墳群にある5世紀後半の前方後円墳で、竪穴系横口式石室を持ち、大陸の影響を受けた形態をしているという。
前方後円墳の中央部の土が剥ぎ取られ、現在は後円部と前方部を残すのみとなっているが、金製耳飾り・鏡・金銅製帯金具鎧飾・銅飾・馬具・冑など多彩な副葬品が出土。

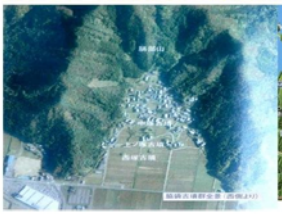
若狭 脇袋古墳群 5世紀

若狭 脇袋古墳群 への入口

若狭 脇袋古墳群 5世紀



若狭国の玉墓　脇袋古墳群が脇部山の山裾に見える脇袋の郷　若狭街道の若狭側の出入口　若狭　上中



若狭 脇袋古墳群 5世紀

古代大和と関係付けられる５世紀の前方後方墳・前方後円墳が点在する脇袋の里

北川の北岸　古代大和の鉄の道をおさえる若狭首長墓　脇袋古墳群

五面に西塚古墳　その背後に　上ノ塚古墳　中塚古墳が見える
西に開け、麓には若狭街道・北側が眺められる背後を脇部山の山裾みに三方を囲まれ狭い平地に
古代若狭街道を納めたこの地の首長たちが眠る
若狭の国造　膳臣（かしわでのおみ）一族の墓といわれる

若狭 脇袋古墳群 5世紀

上ノ塚古墳測量図

上ノ塚古墳　5世紀の前方後円墳 若狭地方最大の前方後円墳
全長 約90m 後円部後 51m 高さ 9m 前方部幅 44m 高さ 7m

上ノ塚古墳は、若狭における最初の大首長墳で、周濠・葺石・埴輪を備え、3段築成である。

若狭 脇袋古墳群 5世紀

西塚古墳　5世紀後半の前方後円墳　古墳　**脇袋の郷より　開けた北側を眺める**　2008.9.1.

若狭 脇袋古墳群 5世紀

西　塚　古　墳　5世紀後半の前方後円墳

全長 74m 後円部径 39m 前方部幅 47m 横穴式石室を持つ前方後円墳であるが、
前方部がほとんど削り取られている
［主要出土品］須恵器　中国製神人画像鏡　仿製四獣鏡　武器（鉄剣　鉄鉾　鉄鏃）
武具　馬具　農工具（鉄斧）　装身具（金銅製冠金具　銅鈴　銀鈴
金製垂飾付耳飾　玉類）
*注目は　鉄器副葬ならびに朝鮮半島からの金製垂飾付耳飾

若狭 脇袋古墳群 5世紀

中　塚　古　墳　　5世紀の前方後円墳　　全長　約60m 高さ6mほどといわれるが形が崩れている
脇袋の集落の家並の中に囲まれていて、家の間を抜けて辛くも奥にある。　ここも私有地で金網に囲まれていて全体が見えない

若狭と大和との深い関係 遠敷川鵜の瀬の水送り

若狭と大和の深い関係を示す 若狭 遠敷川(おにゅうがわ)鵜の瀬の水送り 2011.8.30.

鵜の瀬この河原で 神宮寺の「閼伽井」で汲んだ水を 川に注ぎ 奈良 若狭井に送る「水送り」の神事が行われる
この瀬の中央の所に深い穴があり、奈良若狭井に続いているとの伝説

若狭と大和との深い関係 遠敷川鵜の瀬の水送り

お水送りとお水取り

西暦七一〇年、奈良に平城京が造られ、聖武天皇ご在位の七五二年春に、東大寺において国家を挙げての盛大な大仏開眼供養が行われました。若狭ゆかりの「良弁僧正」が、その初代別当（開祖）と言われています。

若狭神宮寺に遅ってきたインド僧「実忠」は、その後東大寺に二月堂を建立し、大仏開眼の二ケ月前から「旧暦二月」天下世界の安穏を願い、一四日間の「祈りの行法」を始められました。「修二会」と呼ばれるこの行の初日に、実忠和尚は「神名帳」を読み上げられ、日本国中の神々を招かれ行の加護と成就を請われたのですが、若狭の「遠敷明神」だけが遅刻中になって遅れ、三月二日、修二会もあと二日で終わるという日の夜中に現れました。遠敷明神はお詫びとして、二月堂のご本尊にお供えする「閼伽水」「浄水変水」を献じられる約束をされ神通力を発揮されると地面をつらぬかれ、白と黒の二羽の鵜が飛び出て穴から清水が湧き出ました。若狭の根来白石の川淵より地下を潜って水を導かせたと伝えられます。

この清水の場所は「若狭井」と名付けられ、川淵は「鵜の瀬」と呼ばれるようになり、古来より若狭と奈良は地下で結ばれていると信じられてきました。その若狭井から「閼伽水」を汲み上げ本尊にお供えする儀式や、大和路に春を告げる神事「東大寺二月堂のお水取り」であり その神秘を護り伝える行事が若狭小浜の「お水送り」なのです。

鯖街道根来道

若狭と大和との深い関係 遠敷川鵜の瀬の水送り

若狭と大和との深い関係 遠敷川鵜の瀬の水送り

杉の巨木が立ち並ぶ　人っ子一人いない若狭彦神社の境内

遠敷川・おにゅう　鵜の瀬

若狭と大和との深い関係 遠敷川鵜の瀬の水送り

遠敷神とは若狭一ノ宮　若狭彦・姫神社に祭られている若狭の開拓神のことで、また、鵜の瀬にある白石神社は若狭一ノ宮　若狭彦・姫神社の元宮と言われる。
「白石」には新羅の転化との説もあり、対岸の水送り神事の行われる河原に若狭彦・姫神社の境外地がある若狭一ノ宮若狭彦・姫神社の聖地。
また、今回　東大寺を建立した良弁の生誕地であり、しかも、この遠敷にやってきたインド僧実忠が東大寺大仏開眼法要を指導したということも知りました。
この地が遥い昔　1500年前　東アジア交流の真っただ中、多くの文物ばかりでなく、渡来の人も多く往来した国際的な海の玄関口。
大陸・朝鮮半島から大和へつながる交流路「和珠の道」の重要拠点でいてであったことを物語る伝承と思われる。

奈良　東大寺二月堂の修二会・お水取り

この法会は、もとは旧暦の２月１日から行われていましたので、二月に修する法会という意味をこめて「修二会」と呼ばれるようになりました。
また二月堂の名もこのことに由来しています。
現在では３月１日より２週間。
行中の３月 12 日深夜(13 日の午前１時半頃)には、「お水取り」といって、若狭井(わかさい)という井戸から観音さまにお供えする「お香水(おこうずい)」を汲み上げる儀式が行われます。
また、この行を勤める練行衆(れんぎょうしゅう)の道明かりとして、夜毎、大きな松明(たいまつ)に火がともされ、参集した人々をわかせます。
このため「修二会」は「お水取り」・「お松明」とも呼ばれるようになりました。

その由来は　福井県小浜市の遠敷川の神水を遠敷明神が二月堂の観音に送水し、この閼伽水（あかみず）をくむ行事で、２月堂を開いた実忠和尚の勧請と伝えられている。

「修二会」の法要は、正しくは「十一面悔過（じゅういちめんけか）」といい、十一面観世音菩薩（じゅういちめんかんぜおんぼさつ）を本尊とし、
「天下泰平（てんかたいへい）」「五穀豊穣（ごこくほうじょう）」「万民快楽（ばんみんけらく）」
などを願って祈りを捧げ、人々に代わって懺悔（さんげ）の行を勤めるものです。
前行、本行をあわせてほぼ１ヶ月、準備期間を加えれば３ヶ月にも及ぶ大きな法要となります。

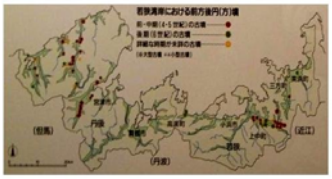
東大寺　２月堂と閼伽井(あかい)屋・若狭井　　2011.11.25.

この閼伽井屋(あかいや)は修二会に際し、毎年３月 12 日(13 日午前１時過ぎ)にこの屋内にある鍾度より本尊十一面観音菩薩にお供えする御香水を汲む儀式を行うところである
天平勝宝四年(752)実忠和尚(かしょう))が２月堂で初めて修二会を行い諸神を勧請(かんじょう)した際、若狭国の遠敷明神が献じたものであるところから、若狭井とも呼ばれる
東大寺

２月堂　お水取り・おたいまつ

二月堂の背後の山腹にある遠敷神社
遠敷神社は飯道神社、興成神社と共に二月堂の鎮守である。

大陸・朝鮮半島から大和へと続く東アジアの文物交流路・和鉄の道
その日本海側窓口「若狭」の実像が見えてきた



3. 近江は鉄の国　古代近江で育てられた量産型たたら製鉄
鉄を必要とする拠点での古代製鉄コンビナートのベースを作った

7・8世紀　近江の鉄

近江は古くから鉄鉱石の産地でもあり古代の近畿最大の鉄生産国でもありました。
「砂鉄の採れる出雲や吉備、播磨などが先進地だと考えられがちですが、
良質の鉄鉱石が採掘できた近江が鉄製産技術を確立し、60ケ所以上の製鉄遺跡が発見されています。

特に北東の伊吹山・金糞山、湖北のマキノ、西浅井　比良には多くの遺跡があり
湖北は重要な鉄の拠点になっていたとおもわれます。

日本で製鉄が始まったのは6世紀の初め頃。
北近江　木之本の古橋製鉄遺跡は　周辺の鉄鉱石を使っていち早く製鉄をはじめています。

もう一つ　近江の鉄でのトピックスというと　琵琶湖の南東岸の瀬田丘陵では7・8世紀にかけて、国家プロジェクトとして、幾つも同じたたら炉が立ち並ぶ並ぶ量産技術に確立し、量産型の製鉄コンビナートに仕上げました。(野路小野山製鉄遺跡)
そして、この製鉄コンビナートをモデルに　鉄を大量に必要とする東北・北九州に古代の大製鉄コンビナートがつくられてゆきました。

これら　製鉄技術の確立には　製鉄技術を持った朝鮮半島の数多くの渡来人がかかわっていたと考えられ、若狭の湊から北近江を通って　入ってきた渡来人が、近江のたたら製鉄技術を支えたと考えられる。

琵琶湖北東部を勢力圏とした息長氏(おきながし)と、琵琶湖西岸を拠点とし勢力を張った和邇氏　そして安曇川の安曇集団もかかわっていたかもしれません。

近畿で一番古い　北近江　古橋製鉄跡

図1　滋賀県の製鉄遺跡の分布

瀬田丘陵　木瓜原遺跡のイラスト図

野路小野山遺跡

近江は鉄の国　古代近江で育てられた量産型たたら製鉄

中国山地で始まった　たたら製鉄　が７世紀　畿内で量産炉へと展開

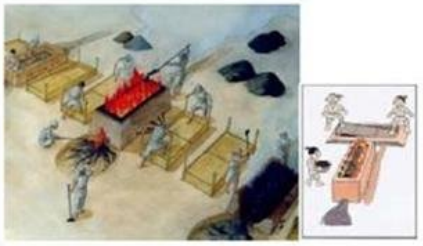
古代たたら製鉄　量産炉への変遷を示す　近江　瀬田丘陵　最古の箱型製鉄炉　源内峠製鉄遺跡　2007.1.30.

古代　たたら製鉄　箱型炉の変遷　製鉄開始から大型・量産炉へ

中国山地で６世紀　箱型炉による製鉄ガスタート

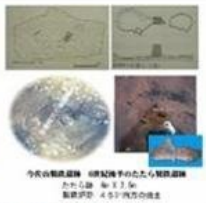
近江など畿内で量産・大型炉がはぐくまれる

量産モデル炉による官営製鉄コンビナートへ



石見　今狭山　製鉄遺跡	吉備　大蔵池南製鉄遺跡	古橋製鉄遺跡の箱型炉	源内峠製鉄遺跡の箱型炉	近江　野路小野山製鉄遺跡	陸奥　金沢製鉄遺跡
6世紀後半	6世紀後半	7世紀前半	7世紀後半	8世紀	8世紀
45cm*45cm	50～60ｃｍ*100～120cm	50cm * 2m	0.3～0.6m *2m ～ 2.5m	約1.2m * 約2m	60cm * 2m
自然通風・皮吹子	自然通風・皮吹子	自然通風・皮吹子	自然通風・・皮吹子	人口送風　踏鞴	人口送風　足踏鞴

石見　今狭山　製鉄遺跡



吉備　大蔵池南製鉄遺跡

古橋製鉄遺跡の箱型炉

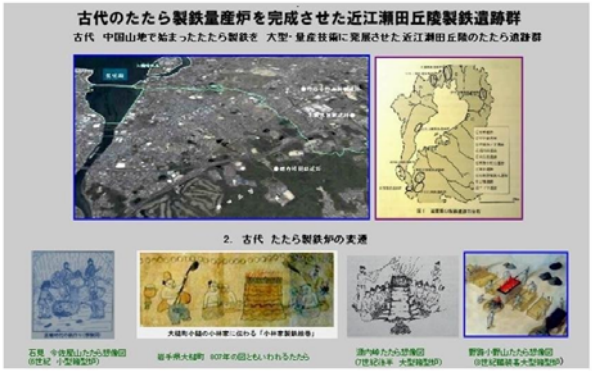
近江　野路小野山製鉄遺跡

近江は鉄の国 古代近江で育てられた量産型たたら製鉄

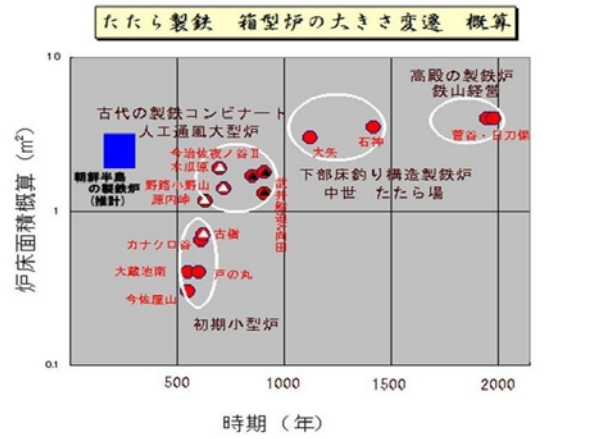
近江は鉄の国 古代近江で育てられた量産型たたら製鉄

滋賀県各地の遺跡から出土した製鉄・鍛冶関係遺物

近江は鉄の国 古代近江で育てられた量産型たたら製鉄



近江は鉄の国 古代近江で育てられた量産型たたら製鉄



近江は鉄の国 古代近江で育てられた量産型たたら製鉄

近江は鉄の国 古代近江で育てられた量産型たたら製鉄

近江は鉄の国 古代近江で育てられた量産型たたら製鉄

近江は鉄の国 古代近江で育てられた量産型たたら製鉄

近江は鉄の国　古代近江で育てられた量産型たたら製鉄

西　北　東

8世紀　たたら炉が整然と並ぶ古代の官営製鉄コンビナート
滋賀県草津　野路小野山製鉄遺跡　2007.1.30.

近江は鉄の国　古代近江で育てられた量産型たたら製鉄

木瓜原製鉄遺跡

1.2　木瓜原製鉄遺跡　　製鉄から鍛冶加工　焚鐘鋳造場を持つ大規模な製鉄コンビナート

木瓜原遺跡　発掘時の周辺丘陵地

立命館大学　くさつ　キャンパスの敷地内にあり、七世紀末から八世紀初めまで製鉄、製鋼から焚鐘の鋳造まで　さながら古代のコンビナートというべき総合生産工房でした。

7世紀後半から8世紀　地方拠点に　大和王権の大製鉄コンビナートが出現した

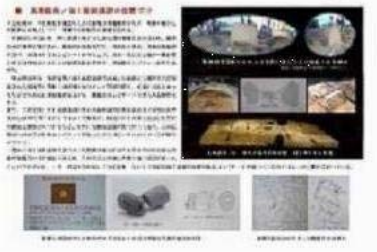
■　7世紀後半から8世紀　大和王権と関係した古代の国家的規模の大製鉄コンビナート

1　畿内　近江　湖西丘陵　野路小野山製鉄遺跡・木瓜原製鉄遺跡

1.1　野路小野山製鉄遺跡

近江　草津野路小野山製鉄遺跡

近江　木瓜原製鉄遺跡(立命館大草津キャンパス)



四国今治　高橋佐夜ノ谷製鉄遺跡

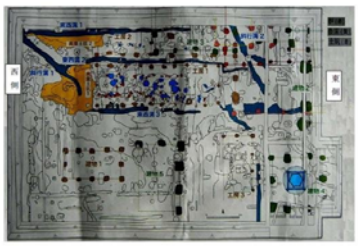
福島県　武井・金沢製鉄遺跡群

福岡県　元岡製鉄遺跡群
（九大伊都キャンパス）

日本海側　新潟県柏崎からも
古代　9世紀の大製鉄コンビナートが最近出土
柏崎　軽井川南製鉄遺跡

近江は鉄の国　古代近江で育てられた量産型たたら製鉄

最近の和鉄の道 トピックスから



工房跡 出土品

出土した鍛冶炉の一例　（見せてもらった奈良文研写真パネルより）

最近の和鉄の道 トピックスから

最大の鍛冶工房跡　工房１
最も大きい掘立て柱建物跡で、東西 19.5 メートル、南北 6 メートル
7 基ほどの炉が 2 列に並び、炉の中で炭を燃やし、ふいごで風を送る構造。

最近の和鉄の道 トピックスから

11月　平城京　朱雀門のすぐ前から　奈良時代初期8世紀の大きな鍛冶工房が出土した

平城京造営の釘や鉄製の工具を造る鍛冶工房とみられている

この鍛冶工房に鉄素材を提供したのはどこか??

鉄の量産技術を確立した近江がこの鉄素材を供給した可能性は高い

平城京で最大規模の鉄鍛冶工房跡　朱雀門や宮に鉄製品供給か　2011.11.17

朱雀門の直近・南東側の平城京跡左京三条一坊から出土した遺跡。炉の跡や金床石（中央の出っ張った岩）などが見つかっていることから、工房のような建築物の跡とみられる。

奈良市の平城京跡の朱雀門前で、奈良時代前半（８世紀前半）の鉄鍛冶（かじ）工房跡とみられる３つの建物跡が見つかり、奈良文化財研究所（奈文研）が１７日、発表した。平城京エリアでは最大規模の工房群という。

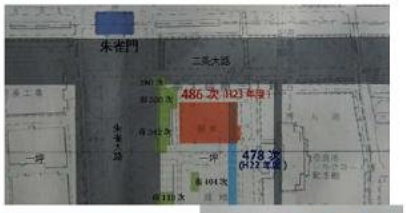
平城宮の正門・朱雀門の周辺は当時の一等地で、奈文研は「平城京の造営期に朱雀門や宮内に鉄製品を供給していた可能性が高く、遷都直後の京の様子を知る貴重な資料」としている。

工房群跡は、朱雀門の南東約１００メートルで見つかり、今年３月に出土した六角形の大型井戸跡に隣接。周辺から大量の炭を含む、焼け焦げた炉跡が約５０基出土した。炉跡は地面を掘った直径３０～４０センチの円形で、鉄くぎや、鍛冶や金属加工に使う金床石（かなとこいし）や砥石（といし）、製錬などで生じる鉄滓（てっさい）と呼ばれる不純物も確認された。

さらに、工房は早期に埋め戻して整地され、更地は広場として利用された可能性が高いという。また、井戸からは「天平二年」（７３０年）と書かれた木簡や「右相撲（みぎのすまい）」と記された墨書土器も出土し、井戸は工房が役目を終えた後に掘られたことも判明した。

奈良大の酒井龍一教授（考古学）は「資材供給の合理性を考えればこれ以上適した場所はなく、工房自体が公共的なものだったと考えられる」と話している。

朱雀門の直近・南東側の平城京跡左京三条一坊から出土した遺跡。



最近の和鉄の道 トピックスから

日本黎明期　北部九州の「鉄」に対して　大和の対抗軸は何なのだろうか?

京奈和自動車道御所道路第７工区**中西遺跡（御所市條地区）**

最近の和鉄の道 トピックスから

国内最大級の耕地面積をもつ弥生時代．前期の水田遺構が出土

大和の国力の源泉「大和平野は弥生時代のはやくから　大穀倉地帯だった ???」

奈良・中西遺跡：弥生前期最大の水田跡　２千枚　高い計画性と技術

2011年11月9日　1時31分　インターネット　毎日JP・Asahi.com　より整理

奈良県立橿原考古学研究所は11月8日、同県御所市條の中西遺跡で、弥生時代前期（約２４００年前）としては国内最大の水田跡（約２万平方メートル）を発見したと発表した。

水田が河川の氾濫による土砂で埋まった後、大規模開発などが行われなかったため地中に残っていたとみられ、橿考研は「当時の水田開発の仕方が非常によく分かる発見」と評価している。

弥生時代前期　国内最大の水田跡
奈良県御所市の中西遺跡

発掘調査は京奈和道のインターチェンジ工事に伴い今年４月から約１万３５００平方メートルで行われている。

同遺跡は緩やかな傾斜地。水田跡は約８５０枚あって、いずれもあぜ道で細かく区切られ、１枚あたり東西４メートル、南北３メートルほどの小さなものが多かった。

水田に水をためるためには、地面を水平にする土木工事が必要で、橿考研は「１枚あたりの面積が小さいのは、土木工事の労力を抑えるためでは」とみている。今回の調査では、水田跡が約９０００平方メートル見つかり、過去の調査で確認された約７０００平方メートルに加え、隣接地で継続中の発掘調査でも現時点で約４０００平方メートルを検出。合わせると約２万平方メートルになるという。これまで弥生時代前期の大規模な水田跡としては、服部遺跡（滋賀県守山市）が約１万８７００平方メートルで最も大きく、次いで池島・福万寺遺跡（大阪府八尾市・東大阪市）の１万８０００平方メートルだった。「自然地形に合わせて大規模に水田を造るのは弥生中期や後期のパターンと同じ。前期の段階から大規模な水稲農耕が行われていたことが裏付けられた」という。

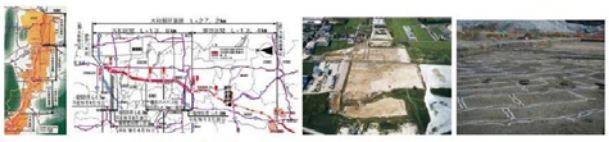
最近の和鉄の道 トピックスから

弥生前期の水田跡　御所市條　中西遺跡　　Asahi.com　2011年11月9日より
「自然地形に合わせて大規模に水田を造る水稲農耕が弥生前期の段階から行われていた」ことの裏付け
大和は早くから　大規模水田が広がる穀倉地帯　???

見つかった弥生時代前期の水田跡。あぜに沿って白線が引かれている　＝８日、奈良県御所市、朝日新聞社ヘリから、小林裕幸撮影

中西遺跡の水田跡。あぜに沿って白線が引かれている　＝８日、奈良県御所市、中里友紀撮影

Asahi.com　2011年11月9日より



中西遺跡　京奈和道の御所南ICインターチェンジ工事が進む御所市條周辺

最近の和鉄の道 トピックスから

中西遺跡の直ぐ北から縄文の翡翠　秋津遺跡

長大な堀で囲われた４世紀前半の方形区画群・その下層から縄文晩期の遺構が出土
また、ここを本拠とする葛城氏の中枢をおもわせる方形区画と独立棟持ち柱の建物の遺構が出土
この周辺には縄文時代からずっと　各地との交流路があった跡すだ肥沃の地

橿考研は2011年８月　御所市の秋津遺跡で確認されていた古墳時代前期（４世紀）の建物のうち８棟が、建物の外に屋根を支える柱のある「独立棟持（むなも）も柱建物」だったと発表。

独立棟持ち柱建物は「神殿」との見方があり、８棟の場所は堀に囲まれた国内最大規模の区画施設内（最大南北５０メートル、東西４８メートル以上）であることから、「祭儀を執り行った特別な空間の可能性がある」としている。

橿考研によると、８棟は５０～１００年の間に建て替えられ、すべてが同時に存在したわけではないが、古墳時代の遺跡で８棟も独立棟持ち柱建物が確認された例はないという。

また、区画施設の南側に竪穴住居２０棟が新たに見つかった。

竪穴住居跡と方形区画群の間には幅２メートルの溝があり、橿考研は「居住と祭儀の空間が機能的かつ明確に分けられていた」としている。

５世紀に大和政権の中枢を担ったとされる古代氏族・葛城氏との関連が指摘されている。

また、　古墳時代の遺構が出土した土面の下層から、縄文時代晩期後半（２８００～２５００年前）の首飾りの一部とみられる糸魚川産と推測される翡翠の管玉（長さ約４センチ、太さ約２センチ）が見つかった。

この地に縄文人が居て、新潟県糸魚川につながる交流路がこの地にあった論拠になるかもしれない。

秋津遺跡で見つかった翡翠の管玉

長大な堀で囲われた4世紀前半の方形区画群遺構が見つかった秋津遺跡

<< まとめ >>

日本海側の玄関口舞鶴と若狭

数多くの技術系渡来人・各地の人たちがやってきて、大陸・朝鮮半島との交流
文化・技術を伝え、日本国を作り上げていった
そんな輝く時代が北近江・若狭にありました

そんな大陸・朝鮮半島交流を担った海人集団の日本各地に数々の痕跡を残し、安曇川にも…

<< まとめ >>

数多くの技術系渡来人・各地の人たちがやってきて、大陸・朝鮮半島との交流
文化・技術を伝え、日本国を作り上げていった
そんな輝く時代が北近江・若狭にありました

- 日本誕生の時代　大和の日本海側玄関口として　大きな役割を演じた 北近江・若狭
  遠数の湊と東大寺・渡来人そして脇袋古墳群など大和との強い結びつき
- 熊野本遺跡や若狭にある初期の前方後方墳の存在は　東海とつながりを示す
  東国への入口、 渡来人・海族の人たちが技術・文化を各地へ運んだ
- 近江は鉄の国・製鉄技術の先進地として、たたら製鉄技術を高め、各地へ技術移入

古代の北近江　安曇川にも　そんな国際感覚の人たちが住み　積極的な交流を推し進めたのだろう。　その中心に鉄があったかもしれぬと・・・・・

近江・若狭を通る和鉄の道が　今後　鉄の謎を解き明かし、また　卑弥呼・日本誕生の謎を解き明かしてくれるかもしれないと思っています

そんな夢を乗せ、今後も各地を風来坊　Country walk
素敵な鉄の景色を訪ねます
'2011.12.1　by Mutsu　Nakanishi

弥生末期から古代奈良時代にかけて　大陸・朝鮮半島との最大の交易品は「朝鮮半島の鉄素材」
その鉄を日本に持ち込んだ航海術にたけた海人族・渡来人たちがいた。
古墳時代から古代　大陸・朝鮮半島への大和の日本海側玄関口として「輝いた北近江・若狭」の時代でもある。

文物ばかりでなく、数多くの人たちが行き来し、新しい文化・技術が息づき、交易を生業として　大陸・日本各地をめぐる担航海術にたけた人たち海人族と呼ばれる人たちが活躍し、この海人族や渡来人が朝鮮半島・大陸と日本の交流を支え、日本各地に文化・技術を伝え、日本の国づくりに大きな役割を演じつつ、日本各地に定住していった。
北近江・若狭にもそんな人たちが数多くおり、大和との連携しつつ、大きな役割をしたと考えられている。

北近江　安曇川はそんな海人族の人たちがいた痕跡が、安曇川の地名に残っている。
この時代の交易の中心は朝鮮半島の鉄素材。
その鉄が若狭・北近江を通って、日本各地に広がり、数々のドラマを生み、素晴らしい景色を作っていった。
自分たちの町の祖先たちがその過程に大きな役割を果たしていた。
そんな「鉄」の景色のスライド集を最後に見ていただき、まとめとします。

【　プレゼン　ベース資料　】

1. 「和鉄の道・Iron Road」　北近江 安曇川・マキノ　雪の山郷　Country walk
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/5iron01.pdf
2. 「和鉄の道・Iron Road」　南北市鑵（したき）　朝鮮半島と倭を結ぶ「和鉄の道」
   http://www.infokkkna.com/ironroad/2011htm/iron7/1109yayoiironroad.pdf
3. 「和鉄の道・Iron Road」　卑弥呼の時代からの大陸への玄関口　若狭・北近江の「若狭街道」
   大陸・朝鮮半島の鉄をむ求めて続く若狭・北近江の「和鉄の道」を訪ねて
   http://www.infokkkna.com/ironroad/2008htm/iron4/0810wksa00.htm
4. 「和鉄の道・Iron Road」　古墳時代朝鮮半島との交流玄関口「若狭」を再度訪ねる
   http://www.infokkkna.com/ironroad/2011htm/iron7/1110wakasa00.htm
5. 「和鉄の道・Iron Road」　愛媛大・今治市共同シンポジュウム「鉄 と古代国家　今治に刻まれた鉄の歴史」
   http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/6iron15.pdf